

定期作況報告

平成 1 5 年 7 月
(7 月 2 0 日現在)

北海道立北見農業試験場

1 . 気象経過

6月下旬：最高気温は平年よりやや低く、最低気温はやや高く、平均気温は平年並であった。降水量は平年並であった（平年比104％）。日照時間は平年並であった（平年比91％）。

7月上旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温は極めて低く、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年より少なかった（平年比10％）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比203％）。

7月中旬：最高気温・最低気温・平均気温は平年より極めて低かった。降水量は平年より少なかった（平年比18％）。日照時間は平年並であった（平年比78％）。

以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は、気温は平年より低く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並に経過した。

注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

気 象 表

項 目 月 旬	平均気温（ ）			最高気温（ ）			最低気温（ ）		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
6月下旬	14.8	14.8	0.0	19.2	20.2	1.0	10.9	9.9	1.0
7月上旬	16.0	16.9	0.9	22.5	21.7	0.8	9.1	12.5	3.4
7月中旬	14.8	18.5	3.7	19.1	23.3	4.2	11.5	14.1	2.6
平 均	15.2	16.8	1.6	20.2	21.7	1.5	10.5	12.2	1.7

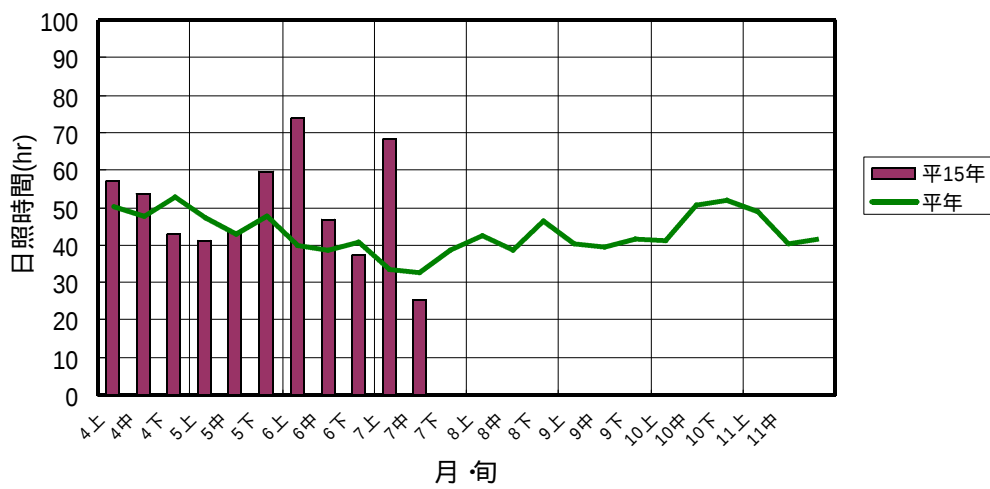
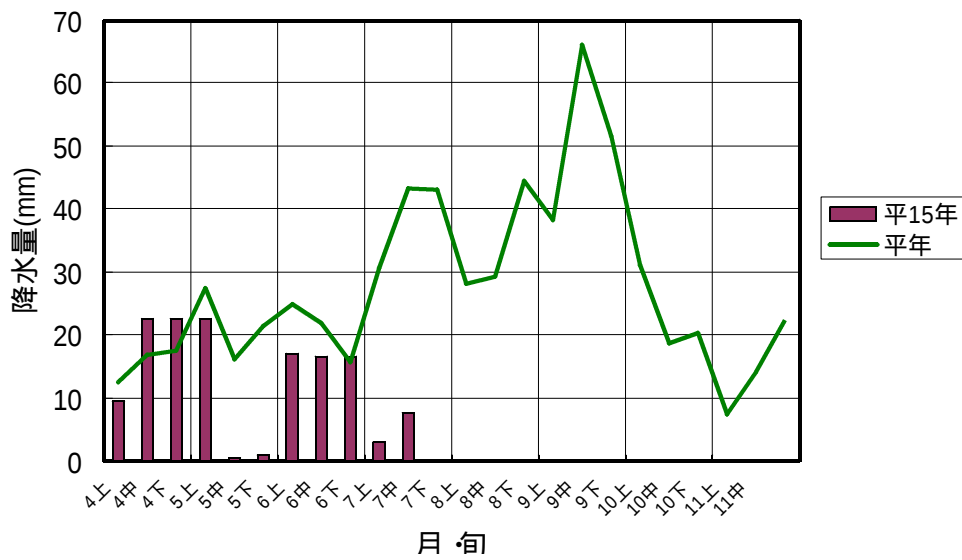
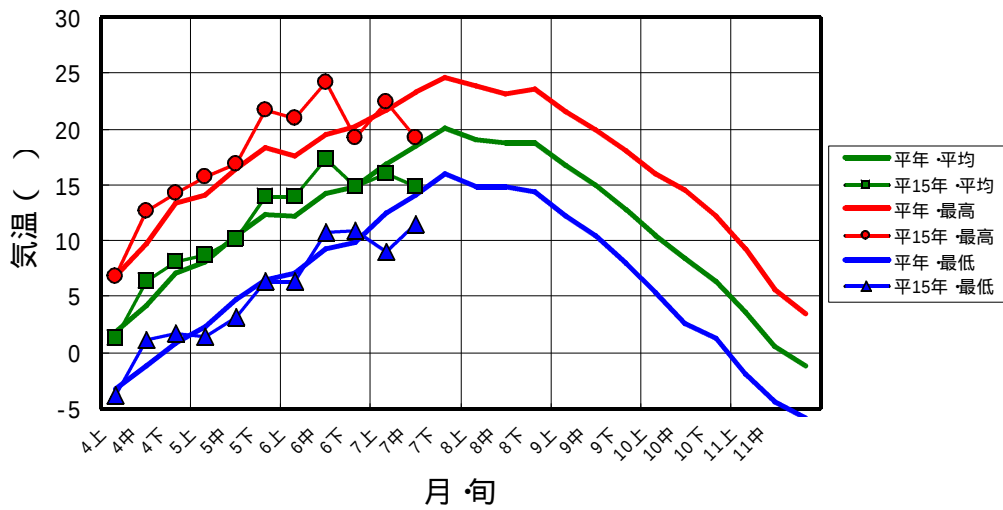
項 目 月 旬	降水量（mm）			日照時間（h）		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
6月下旬	16.5	15.8	0.7	37.2	40.9	3.7
7月上旬	3.0	30.7	27.7	68.1	33.5	34.6
7月中旬	8.0	43.4	35.4	25.5	32.7	7.2
合 計	27.5	89.8	62.4	130.8	107.1	23.7

注） 1）観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2）平年値は前10か年間の平均である。

（参考）7月1日～20日の日別の気温推移

日	気温（ ）			日	気温（ ）			日	気温（ ）			日	気温（ ）		
	平均	最高	最低		平均	最高	最低		平均	最高	最低		平均	最高	最低
1	13.6	17.9	9.4	6	17.5	25.0	9.1	11	18.9	24.7	14.5	16	12.5	16.4	10.3
2	14.3	19.8	9.7	7	17.5	25.2	10.1	12	17.8	21.5	13.4	17	14.1	17.2	11.3
3	16.1	22.6	10.4	8	17.4	24.9	6.0	13	12.1	14.6	9.6	18	16.3	22.4	12.8
4	15.7	22.9	8.1	9	15.2	22.8	6.3	14	11.1	12.6	9.5	19	16.6	23.3	13.0
5	17.4	26.7	8.3	10	15.4	16.8	13.1	15	12.1	14.0	10.5	20	16.7	24.2	9.7



2. 当場の作況^{注)}

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作 況：やや良

事 由：7月上旬は好天の日が多く、最低気温は低かったが最高気温はやや高く、生育は前回に引き続き平年より進んでいるが、7月中旬は低温で曇天・霧雨の日が多く、登熟はやや緩慢となっている。稈長、穂長は平年並か品種によってはやや長い。穂数は多く、「タクネコムギ」、「ホロシリコムギ」の全区で倒伏がみられ、「ホクシン」も一部で倒伏が発生している。

以上のことから目下の作況はやや良である。

品 種 名	出穂期(月・日)			稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
タクネコムギ	6. 4	6. 6	2	96	95	1	8.4	7.7	0.7	929	839	90
ホクシン	6. 8	6.13	5	89	88	1	9.3	8.5	0.8	777	708	69
チホクコムギ	6.12	6.15	3	92	91	1	7.2	7.2	0.0	823	690	133
ホロシリコムギ	6.12	6.12	0	101	97	4	8.8	8.5	0.3	903	723	180

注) 平年値は前7か年中、「タクネコムギ」は平成12年、14年を、「ホクシン」は平成10年、14年を、「チホクコムギ」は平成8年、14年を、「ホロシリコムギ」は平成8年、12年をそれぞれ除く5か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/m²、その他の品種の播種量は340粒/m²。

お詫びと訂正

6月20日現在のチホクコムギ茎数の平年値が690本となっていました。正しくは762本でした。お詫びして訂正いたします。

2) 春まき大麦(二条大麦) 作 況：平年並

事 由：6月下旬の気温、降水量、日照時間は平年並であったが、7月上旬は最高気温がやや高く、降水量が少なく、日照時間が長かった。このため、生育は平年より早く進み、出穂期は平年より2日早まった。その後、7月中旬の降水量も少なく干ばつ傾向であったため、節間伸長が不十分であり、稈長は短かった。6月20日調査の茎数は多かったが、分げつの無効化が進み、現在の穂数は平年より若干少な目である。

以上のことから目下の作況は平年並である。

品 種 名	出穂期（月・日）			稈長（cm）			穂長（cm）			穂数（本/m ² ）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
りょうふう	7. 4	7. 6	2	76	87	11	6.3	6.3	0	557	604	47

注）平年値は前7か年中、平成9年、12年を除く5か年の平均。

3）春まき小麦 作 況：やや不良

事 由：6月下旬の気温は平年並であったものの、6月中旬までの高温により出穂期は平年より6日早くなった。7月上旬以降は降水量が少なく、春まき小麦の生育調査を行っている圃場は依然として干ばつ傾向であり、稈長は平年より低く、穂数も少ない。穂長は平年並である。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

品 種 名	出穂期（月・日）			稈長（cm）			穂長（cm）			穂数（本/m ² ）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ハルユタカ	6.22	6.28	6	78	85	7	8.2	8.2	0.0	421	493	72

注）平年値は前7か年中、平成9年、11年を除く5か年の平均。

4）とうもろこし 作 況：平年並

事 由：草丈は平年より17.6cm低く、出葉数は平年並であった。本年は7月上旬・中旬の低温、降水不足により、節間伸長がやや抑制されているが、出葉数は平年並であり、生育は平年並に進んでいると考えられる。

以上のことから目下の作況は平年並である。

品 種 名	草丈（cm）			出葉数（枚）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ディアHT	111.0	128.6	17.6	11.6	11.5	0.1

注）平年値は前5か年の平均（平成10年に供試品種を変更したため）。

5) 大豆 作 況：平年並

事 由：6月下旬は平均気温、日照時間、降水量ともに平年並であったが、7月上旬以降は気温が低めに経過し、特に7月中旬は平均気温が平年を約4℃も下回った。このため7月に入って初期生育はやや停滞し、主茎長は平年よりやや短くなり、本葉数および分枝数はほぼ平年並となった。

以上のことから、目下の作況は平年並である。

6) 小豆 作 況：平年並

事 由：6月下旬は平均気温、日照時間、降水量ともに平年並であったが、7月上旬以降は気温が低めに経過し、特に7月中旬は平均気温が平年を約4℃も下回った。このため7月に入って初期生育はやや停滞し、主茎長、本葉数、分枝数ともにほぼ平年並となった。

以上のことから、目下の作況は平年並である。

7) 菜豆 作 況：平年並

事 由：6月中旬までの初期生育が順調であり、6月下旬の平均気温も平年並となったため、大正金時の開花期は平年より7日早い7月6日となった。その後、7月上旬以降は気温が低めに経過し、特に7月中旬は平均気温が平年を約4℃も下回った。このため7月に入って初期生育はやや停滞し、分枝数は平年よりやや多いものの、草丈、本葉数はほぼ平年並となった。

以上のことから、目下の作況は平年並である。

種類	品種名	開花始 (月・日)			主茎長・草丈 (cm)			本葉数 (枚)			分枝数 (本/株)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
大豆	トヨコマチ	-	7.21	-	35.2	41.7	6.5	5.8	6.3	0.5	2.5	2.4	0.1
	トヨホマレ	-	7.24	-	31.3	36.1	4.8	5.9	6.3	0.4	2.6	1.9	0.7
小豆	エリモショウズ	-	7.27	-	11.0	11.7	0.7	4.2	4.5	0.3	0.1	0.1	0.0
	サホロショウズ	-	7.25	-	9.9	11.1	1.2	4.5	4.4	0.1	0.1	0.0	0.1
菜豆	大正金時	7. 6	7.13	7	32.5	32.6	0.1	3.7	3.3	0.4	4.2	3.3	0.9
	雪手亡	-	7.23	-	36.4	31.2	5.2	6.1	6.0	0.1	6.1	5.2	0.9
	福勝	7. 7	7.14	7	29.9	34.3	4.4	3.7	3.4	0.3	4.3	2.7	1.6

注) 平年値は、大豆は前7か年中平成10年、12年を除く5か年、小豆は前8か年中平成10年、14年および試験を中止した12年を除く5か年、菜豆は前8か年中平成11年、13年および再播した10年を除く5か年の平均。

8) ばれいしょ 作 況：やや不良

事 由：6月中の高温傾向により、生育ステージが早まり、開花始は「男爵薯」「コナフブキ」とも平年より6日早い6月27日であった。一方、植え付け後から続く干ばつ傾向の影響で、茎長は両品種とも平年より約20cm短く平年の60～70%であった。茎数は「コナフブキ」ではほぼ平年並だが、「男爵薯」では平年より少なかった。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

品 種 名	開花始（月・日）			茎長（cm）			茎数（本/株）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男 爵 薯	6/27	7/3	6	30	50	20	2.9	3.6	0.7
コナフブキ	6/27	7/3	6	48	69	21	3.0	2.8	0.2

注）平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成9年、14年を、「コナフブキ」は平成9年、11年をそれぞれ除く5か年の平均。

9) てんさい 作 況：平年並

事 由：7月上旬の干ばつと、7月中旬の低温・少雨のため、地上部の生育は抑制され、根部の肥大も鈍っている。

以上のことから、目下の作況は平年並である。

栽培法	品 種 名	草丈（cm）			葉数（枚）			根周（cm）		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ ストーク	53.8	55.2	1.4	19.4	21.9	2.5	19.3	20.4	1.1
		53.8	55.8	2.0	17.3	21.5	4.2	21.6	22.5	0.9
直播	モノホマレ	48.5	51.6	3.1	17.4	20.1	2.7	16.3	16.4	0.1

栽培法	品 種 名	茎葉重（g / 個体）			根重（g / 個体）		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ ストーク	594	620	26	208	225	17
		628	650	22	197	229	32
直播	モノホマレ	414	453	39	113	106	7

注) 平年値は前7か年中、直播「モノホマレ」は平成10年、11年を、移植「モノホマレ」は平成10年、14年を、「ストーク」は平成10年、13年をそれぞれ除く5か年の平均。

10) 牧草作況: -

事由: 1番草収穫時の作況は不良であった。2番草の収穫調査は8月上旬に予定している。

11) たまねぎ作況: 良(参考)

事由: 6月下旬は気温、降水量ともに平年並で、7月上旬は平均気温が平年をやや下回り、少雨傾向であったものの、日較差が大きく生育は順調であった。その後、7月中旬の低温により地上部の生育は停滞したが、球径肥大は順調に進んでいる。現時点での生育は平年値(火山性土の成績)に比べると各形質とも優っている。

以上のことから目下の作況は良(参考)である。

品 種 名	草 丈 (cm)			葉 数 (枚)			葉 鞘 径 (mm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
スーパー北もみじ	77.0	68.3	8.7	8.4	8.1	0.3	17.9	14.7	3.2
北もみじ	74.3	68.1	6.2	10.1	8.8	1.3	18.9	15.6	3.3
改良オホーツク1号	68.8	64.8	4.0	9.3	8.8	0.5	17.9	15.6	2.3

品 種 名	球 径 (mm)			葉 身 生 重 (g)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
スーパー北もみじ	32.4	19.9	12.5	73.2	51.4	21.8
北もみじ	32.3	20.8	11.5	78.4	57.6	20.8
改良オホーツク1号	43.9	24.9	19.0	81.3	57.8	23.5

注) 平年値は固定ほ場(火山性土)の成績、本年は沖積土の成績のため、「参考扱い」とする。前7か年中、「スーパー北もみじ」は平成12年、13年を、「北もみじ」および「改良オホーツク1号」は平成10年、12年をそれぞれ除く5か年の平均。